

第3回 部活動地域移行推進協議会

<日時> 令和6年3月22日（金）14：00～15：30

<会場> 市役所10階 教育委員会教育委員会室

- <議題>
- 1 情報共有
 - 2 実証事業の成果と課題
 - 3 生徒・児童等アンケート
 - 4 地域クラブ移行で目指す千葉市の将来像
 - 5 その他

I 情報共有

1. 地域指導者の確保に向けた取組み

1. 大学生・専門学校生を対象とした取組み(教育委員会)

2. 地域人材を対象とした取組み(市民局)

2. 千葉市スポーツ推進審議会での提言

3. その他

2 実証事業の成果と課題（効果測定）

【実証事業】

1. 実施期間：10月7日（土）～2月25日（日）

2. 実施回数：

合計実施回数 266回

平均実施回数 14.7回

最大実施回数 18回

最小実施回数 10回

3. 参加人数：373人

4. 受託事業者及び種目：

① JR東日本スポーツ(卓球・サッカー・バドミントン)

② リーフラス(サッカー・野球・バレーボール・吹奏楽)

③ オークスベストフィットネス(バドミントン・卓球・バスケットボール)

④ 千葉県スポーツ協会(柔道・剣道・野球)

2 実証事業の成果と課題（効果測定）

実証事業の効果測定として、事業者への個別ヒアリング、生徒・保護者等への事後アンケートを実施

【事業者個別ヒアリング】

1. 実施期間：3月1日（金）～
2. ヒアリング事業者：（4社）
 - ① JR東日本スポーツ(3/1)
 - ② リーフラス(3/8)
 - ③ オークスベストフィットネス(3/11)
 - ④ 千葉県スポーツ協会(3/11)

【事後アンケート】

1. 実施期間：3月1日（金）～3月15日（金）
2. 対象及び回答者数：

① 中学生	79人
② 中学生保護者	182人
③ 中学校教職員	20人
④ 管理職	18人
⑤ 地域指導者	14人

【個別ヒアリング】

- 事業視察時における個別ヒアリングの実施（対象：地域指導者、生徒、事業者）

2 実証事業の成果と課題（生徒・保護者等アンケート）

1. アンケート結果

別紙 「部活動の地域クラブ移行実証事業効果測定調査結果」のとおり

2. 個別ヒアリング

- ・生徒の反応は、おおむね良好。一部指導方法が従来と異なることに納得がいかない生徒や、他校での練習に積極的に参加できない生徒がいた。
- ・合同での活動を実施している事例では、毎回合同練習をすることについて否定的な声も聞こえてきており、1か月に一回程度の単独でのクラブ活動も行ってほしい、という要望があった。

2 実証事業の成果と課題（効果測定・事業者個別ヒアリング）

○指導者の確保

- ・今回は、契約から活動開始まで約1か月であったが、研修まで行うことを考えると、2か月が望ましいと感じた。
- ・人材紹介の場合は、Web募集と異なり、途中で辞める割合は低いと考える。
- ・Web募集の場合は、指導者のモチベーションも個人差が大きい。
- ・吹奏楽では、千葉市が事前に地域楽団と連携していたことがとても助かった。
- ・指導者の交代に関しては、転勤や介護、結婚・出産などの事由により発生することがある。（他都市の事例）

○運用

- ・指導者の配置人数は、1名配置でも問題ない場合もあるが、複数が動ける体制をとることで、とっさの対応が可能（A卓球クラブの指導者が急遽指導ができなくなった場合、B卓球クラブの指導者がカバーができた）
- ・指導者の体調不良等による急な代替指導者については、将来的に全ての競技において代替指導者を確保することが難しいことから、専門性が無い代替指導者の派遣も可とする運用も考える必要がある。
- ・指導者の都合と学校の活動日が合致せず、活動が難しかった日があった。学校が候補日を複数出してくれるような場合は、調整が容易だった。

2 実証事業の成果と課題（効果測定・事業者個別ヒアリング）

○生徒・保護者

- ・指導者は生徒と良好な関係を築けた。学生指導者も、より良い生徒との関わり方を模索するなど向上心があった。
- ・指導者と生徒とは特に問題なし。トラブル発生時も指導者が保護者への対応を行い、学校へは結果報告のみ。
- ・指導者の指導が厳しいという指摘が生徒からあり、指導者には即座に是正を指示し、その後は特段そのような話はなかった。
- ・最後まで地域指導者に慣れなかった生徒や、他校との合同に抵抗感を示す生徒が少数であるがいた。

○その他

- ・地域クラブの活動当初数回は、顧問が同席することで、よりスムーズに生徒が地域指導者に慣れると考える。
- ・ICTの活用については、今年度程度の規模であれば、導入しなくても対応可能だったが、今後は導入を検討。
- ・鍵管理は、キーボックスにより、円滑に行うことができた。指導者一人一人が管理するとなると紛失リスクが高い。
（全市展開に向けて、キーボックス的な運用は必須である。）
- ・消耗品は部活動で購入したものを使用したが、地域クラブでの購入についても、整理する必要がある。
（消耗品：テーピング、シャトル、卓球ボール等）

3 生徒・児童等アンケート

1. 実施期間：2月16日（金）～3月12日（火）

2. 回答者数：

① 中学生	4,148人
② 小学生	5,040人
③ 中学生保護者	2,869人
④ 小学生保護者	4,330人
⑤ 中学校教職員	944人
⑥ 小学校等教職員	1,644人
⑦ 行政・教育委員会事務局職員	258人

3. アンケート結果

別紙「部活動の地域クラブ移行に関する意識調査」のとおり

4 地域クラブ移行で目指す千葉市の将来像について

1 背景

学校教育審議会や実証事業の保護者説明会などでは、平日も含めた地域クラブ移行後(部活廃止後)の、中学生のスポーツ文化芸術環境の将来像を示してほしいとの声が上がっている。

地域移行に関する関係者の理解を深めるためにも、地域移行のイメージや、平日部活動の在り方、地域クラブ完全移行後(部活廃止後)の中学生のスポーツ・文化芸術環境などの全体像を提示する必要がある。

2 検討事項

- ・部活の代替えとして、生徒にどのようなスポーツ・文化芸術活動環境を提供することを目指すのか。(将来像の提示)
- ・休日の地域クラブ活動で提供する環境(将来像を見据えた環境の構築)
- ・平日の地域移行も見据えた部活動の在り方(現在抱える部活の課題を解決しつつ、地域移行へ向けた取組み)



生徒・保護者	地域クラブ移行がいつ、どのように行われていくのか、将来的なイメージを提示することにより地域移行への理解が深まる。
地域指導者・競技団体	部活動の地域移行に対して、具体的ななかかわり方がイメージできるようになり、指導者の掘起しにもつながる。
教職員	スケジュールの提示による地域移行の理解促進協力・兼職兼業による指導者の掘起し

【部活が抱える課題】

生徒:少子化などから部活の規模縮小、日常活動が難しくなりつつある。学校規模によっては、部活数に大きな差が出ている。

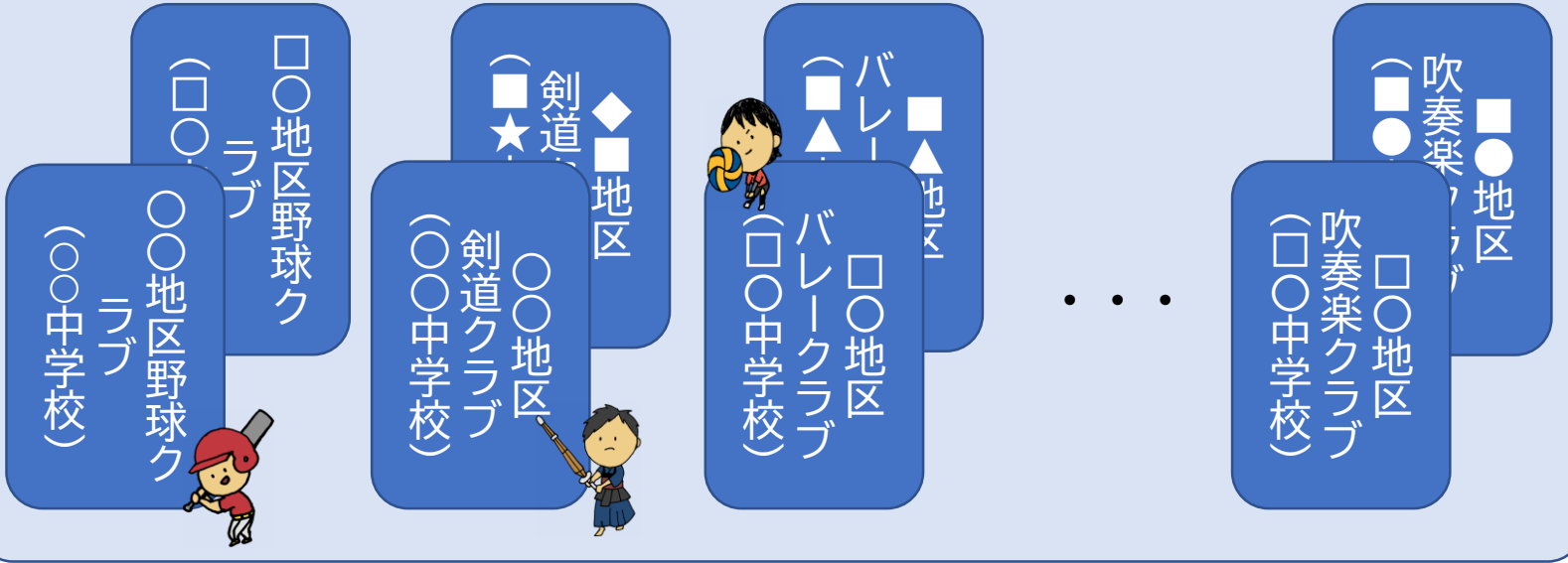
教員:教員を取り巻く環境の変化、価値観の多様化などから、顧問、特に主顧問の負担感が大きくなっている。

令和8年度に想定される休日の地域クラブ移行の姿（案）

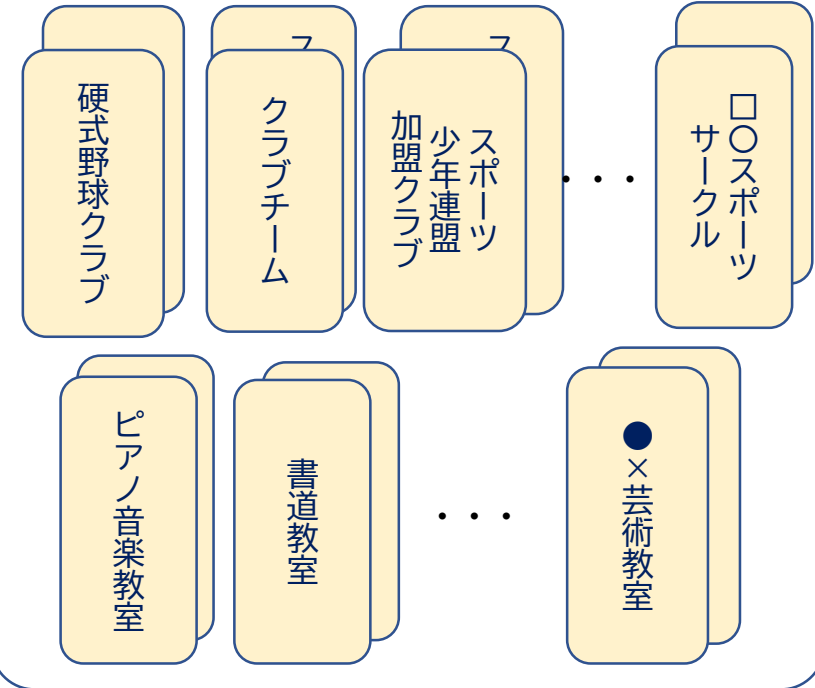


千葉市から委託された事業者が市内全域で部活動の代替えとなる地域クラブを運営

千葉市休日地域クラブ（仮称）



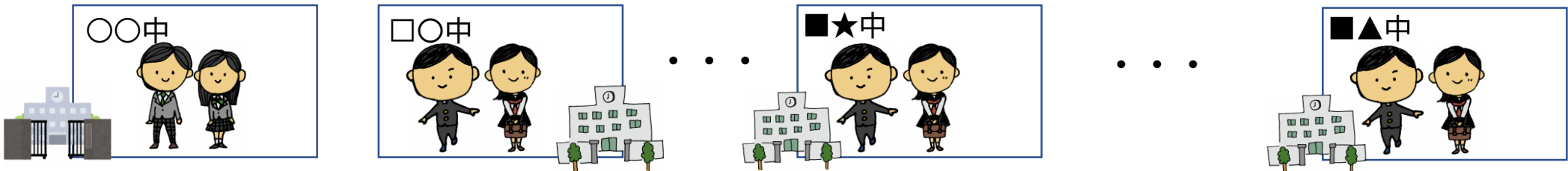
地域で行われている民間スポーツ・文化芸術活動



自分の好きな活動に参加。

平日の部活動と同じ活動に参加。

市内に在住する中学生



5 その他

(1) 令和6年度実証事業

ア 規模の拡大(※3月22日時点)

15拠点(26部) → 30拠点(72部)

イ 参加校の拡大(※3月22日時点)

18校 → 34校

ウ 実践的な取組

- ・拠点・合同での活動を基本とし活動拠点の集約化。合同13部→拠点・合同55部(※3月22日時点)
- ・千葉県地域クラブ活動等指導者人材バンクシステム[ちばクラサポ)の活用による指導者確保
- ・JFAコーチング研修の受講
- ・各種大会引率
- ・ICTを活用した情報共有(保護者・指導者・学校・運営事業者)
- ・地域団体と連携した学校部活動以外の受け皿となる地域クラブ活動の掘起し



より実践的な実証事業の実施を行い、全市展開に向けた検証を実施